

# ハスモンヨトウ情報第2号 (ダイズ、キャベツ)

令和5年8月18日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除室

## ダイズ、キャベツほ場でトラップの誘殺数が多い地域があります

### 1 発生状況

8月上旬の巡回調査（県内9地点18ほ場）において、ダイズほ場での寄生株率は0.89%（平年0.42%、前年0.00%）で、過去10年間で3番目に高い状況です。また、複数のほ場で白変葉が確認されました。

ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける7月第1半旬から8月第2半旬までの成虫の総誘殺数は、安城市で多く、長久手市と西尾市でやや多い状況です。なお、豊田市では平年並、弥富市ではやや少ない状況です（図1、西尾市、豊田市、弥富市は省略）。

キャベツほ場に設置したフェロモントラップにおける8月第1半旬、第2半旬の成虫の誘殺数は、南知多町で多く、稲沢市と田原市で平年並の状況です（図2、稲沢市は省略）。

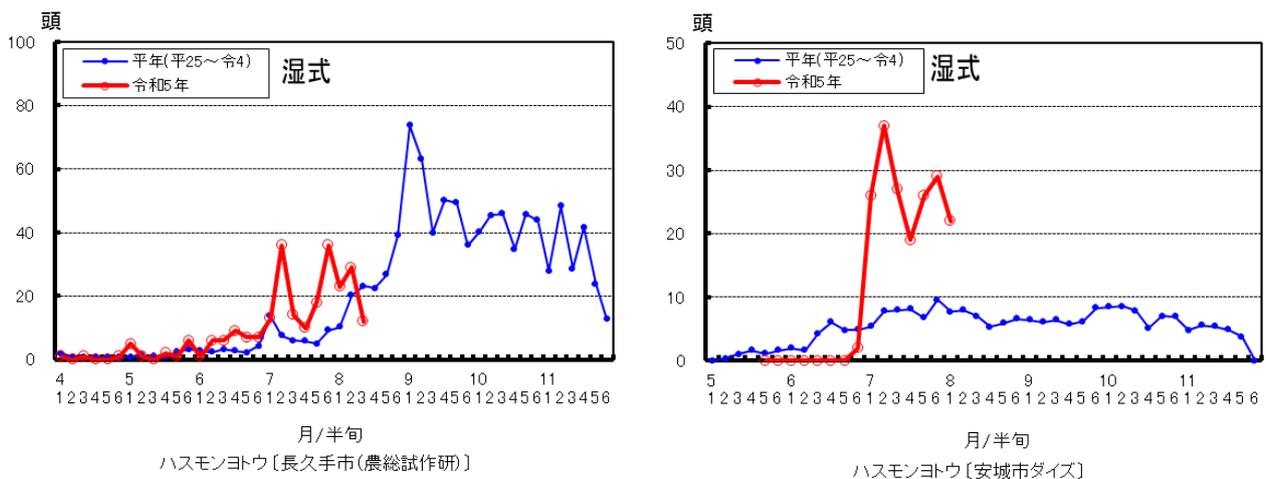


図1 ダイズほ場に設置したフェロモントラップにおける成虫の誘殺数（長久手市、安城市）

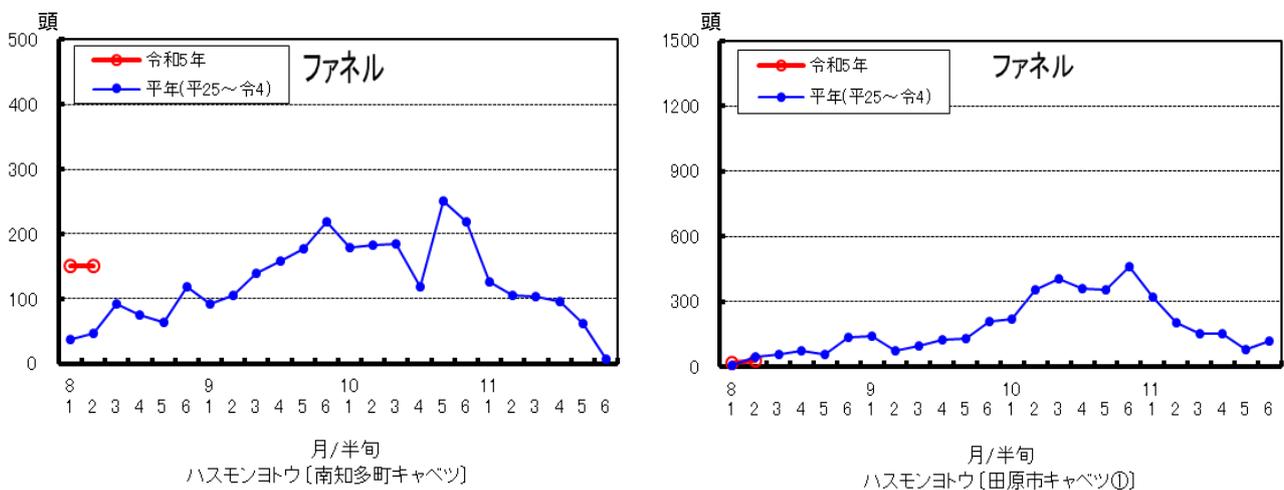


図2 キャベツほ場に設置したフェロモントラップにおける成虫の誘殺数（南知多町、田原市）

## 2 今後の見込み

名古屋地方気象台8月17日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の気温は高く、降水量はほぼ平年並と見込まれています。本種の発生に好適な条件が予想され、今後、発生量が増加する可能性があります。ほ場を観察し、ダイズの白変葉（図2）や幼虫（図3）を確認したら表1を参考に防除しましょう。キャベツは定植に向けて、本種の発生に注意し、表2を参考に防除しましょう。

薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同じIRACコードの薬剤は連用しないようにしましょう。

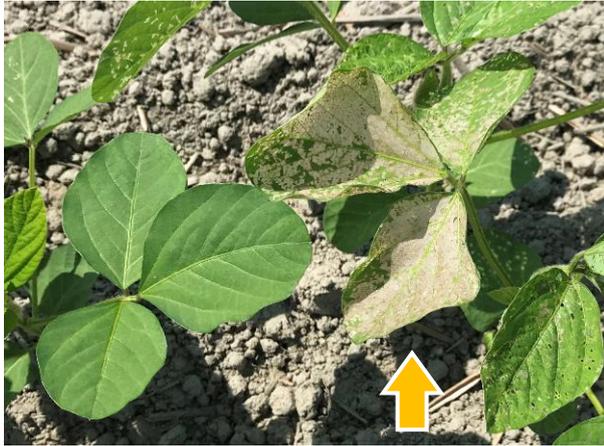


図2 ダイズの白変葉



図3 ハスモンヨトウの若齢幼虫

表1 ダイズのハスモンヨトウに対する主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRACコード
トレボン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	3A
トレボン粉剤DL	収穫14日前まで	2回以内	3A
ノーモルト乳剤	収穫14日前まで	2回以内	15
カスケード乳剤	収穫7日前まで	2回以内	15
トルネードエースDF	収穫7日前まで	2回以内	22A
プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
プレバソフロアブル5	収穫7日前まで	2回以内	28
ペガサスフロアブル	収穫7日前まで	3回以内	28
マトリックフロアブル	収穫前日まで	3回以内	18

表2 キャベツに対するハスモンヨトウの主な防除薬剤

農薬名	使用時期	使用回数	IRACコード
エルサン乳剤	収穫14日前まで	2回以内	1B
マッチ乳剤	収穫7日前まで	3回以内	15
プレオフロアブル	収穫7日前まで	2回以内	UN
トルネードエースDF	収穫7日前まで	2回以内	22A
アニキ乳剤	収穫3日前まで	3回以内	6
アクセルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	22B
プロフレアSC	収穫前日まで	3回以内	30
ヨーバルフロアブル	収穫前日まで	3回以内	28

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示します。

IRACコードの詳細は、[https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism\\_irac03.pdf](https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf)を参照しましょう。

農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。